AI を使った投資話

2021/9/2
西九州伝道所
佐々木正明

　随分むかしのことになりますが、有名な宗教改革者の一人で優れた神学者と言われる、ジョン・カルビンという人が、「正当な労働によって得た富は、神の祝福だ」というようなことを言ったそうです。このような考え方は、旧約聖書の時代からあったもので、必ずしも、彼の発想によるものではありませんし、本当に彼がそのようなことを言ったのかどうかも、怪しいものです。ところが時代が過ぎて１９世紀から２０世紀にかけての博学、マックス・ウエーバーという人が、カルビンのその言葉が、現代の資本主義の土台になったとか何とか、言ったという話を日本ではよく聞きます。でもマックス・ウエーバーはそんなことは言っていません。多分、さらに後の人たちが、自分に都合が良いように、そんなことを言いふらしたのでしょう。

「正当な労働によって得た富」というのも、胡散臭いですね。まだ、法律と言うものがあまり社会を縛っていなかった時代ならいざ知らず、近代でも現代でも、いや中世であってもそんな論理は通用しません。通用しないものを通用させてきたのが人間です。「正当な労働」って、誰が正当と決めるのですか。法律があるというのなら、だれが法律を決めたのですか。金と権力のある人間たちです。まともな教育を受けたこともない、字も読むことが出来ない貧しく弱い者に、法律を決め、制定できるはずがありません。金と権力を持っている者たちが、自分たちに都合が良い法律を定めたのです。植民地時代には、みな宗主国が定めた法律でした。それが現代でも残っています。チョコレートなど食べたこともない貧しい人々が、白人たちの定めた法律に従って、自分たちの畑を壊し、カカオの木を植え、食べるものにも窮しています。牧師は以前から「チョコレートを食べるなら、明治のチョコレートにしよう」と言い続けていましたが、明治では、少なくてもカカオ農家がチョコレートを食べることが出来るように、富の分配を考えた経営をしているからです。

　金と権力を持っている者が、自分たちに都合が良いような法律を作ろうとするのは、時代を超えて、万国共通なようです。現代日本も、例外ではないですね。スケールこそ小さくなっていると言え、圧力団体なんてものまで存在しますね。私たちはそのような法律に踊らされていてはならないと思います。金も権力もない私たちですが、意識だけはしっかりと、高く持っていましょう。それが、いつかは役に立つことになるのです。

ところで、ここしばらく私たちの国では、AI による投資と言うものが話題になっています。有名な政治家、起業家、あるいは日銀の総裁までもが登場して、宣伝をしています。余りにも激しいので、何でも興味をもって首をつっ込みたくなる牧師は、敢えて、申し込みをしてみました。総理大臣になりそこねた高市早苗さんと、ホリエモンこと堀江貴文氏が、共演して宣伝していたものです。４万円の投資で始め、一月に５０万、１００万と儲かるのだそうです。完全に合法的であって、違法性はまったくないそうです。ところが、牧師はPCもスマホもまったく操作が出来ない、化石老人です。申し込みをすると、あちらさんから電話がかかってきました。外国の人のひどい日本語で、言われるままにスマホを操作しましたが、どうしても上手く行かず、一時間以上も経ってから、こちらから投げ出してしまいました。その後、およそ、５０回ほども電話がかかってきましたが、無視を決め込みました。高市さんもホリエモンさんも、もしかしたら、AI による捏造動画かなとさえ思ったものです。

そうしている一方で、私は日銀の総裁という人が、これも動画で出演して勧めるもう一つのAI による投資話に申し込みをしてみました。ところが今度も、実際に電話をして来たのは外国の女性でした。たどたどしい日本語で、なかなか話が通じません。彼女の言うとおりにスマホを操作しても、まったくうまくいきません。それで、忙しい私ですので（？）電話を切ってしまったところ、こちらも数十回もの呼び出しを受けました。すべて無視しましたが・・・・・電話をして来た事務所は高市さんが出ていたものと、まったく同じ名前でした。最初に出す金額が異なっていただけです。昨日、９月１日まではそれこそ電話は鳴りっぱなしでしたが、とうとう受信拒否にしてしまいましたので、今は静かです。

私は、これが本当の話なのかどうなのかには、あまり興味がありません。チャットGPTに調べてもらうと、アメリカでもこのような勧誘が大いに問題になっていて、関係の政府機関がたくさん警告を出しているそうです。日本でも、消費者庁を始め関係省庁が警告を出しているそうで、具体的に教えてくれました。私の興味は、このような話の、非倫理性・非道徳性にあります。まったく労働をしないで、僅かの資本を出すだけで、それだけ大きな儲けが出来るということに、人間としての在り方が、問われるのではないかと感じるのです。投資ですから。これによって、誰かが直接被害を受けることもないのかもしれません。でも、ここには「正当な労働で得た富は、神の祝福である」という、カルビンが語ったと吹聴される言葉よりも、よほど悪いと感じるのです。

法律に違反していないから正しいというのは、まったくの誤りです。法律の隙間をぬってやることに、正義があるのかです。今はすでに個人になられた堀田力さんという方は、ロッキード事件などに携わった元検事の弁護士さんでしたが、彼は、「法律は最低の倫理だ」というようなこと語っておられました。「法律に反していなければ正しいのではない。これより悪くなってはいけないという最低ラインだ」という意味だと、私は理解したのですが違うのでしょうか。

何のお労働もしないで、そのような金儲けをすること自体が、人間としてやってはならないことだと、私の倫理観は反応するのです。

　何ですって？　もしも私がＰＣの操作にもスマホの操作にも長けていたら、どうなったんだってお聞きですか。私は数カ月やってみて、お金が儲かったら、ＡＩなどとは無縁に暮らしている、貧しく力もない人たちの生活を支援するために、寄附をしようと考えていました。あまり熱心ではないために、止めてしまったのですが。

　私がそのように考えるのは、考えるよりも感覚が先に「NO」と言ったからです。私の人間性、神に似せて造られた、私の本源的な人間性が「ダメ」と警告してくれたからです。